

## 竹森道悦の地図奉納

「琉球国図」という地図が沖縄県立博物館に所蔵されています。琉球を中心に周辺の島々、薩摩・大隅半島、および海路等が描かれています。この地図は平成18年に九州国立博物館で開催された特別展「うるま ちゅら島 琉球」で展示されましたので、実物をご覧になった方も多いかもかもしれません。この地図自体大変興味深い内容で、近年学界で話題を集めているのですが、ここで注目したいのは、この地図にある墨書です。

墨書には「琉球国図／奉納／天満宮広前／元禄九丙子／八月吉辰」「松壽菴竹森道悦奉納／熊本伊右衛門入道圓齊七十一歳画焉」とあります。

また、地図には「太宰府天神文庫」等の所蔵印が押されています。これらのことから、この地図がもとは太宰府天満宮に所蔵されていて、奉納者は竹森道悦、絵師は熊本圓齋という人物であったことが判明します。

竹森道悦は福岡藩の藩士です。黒田二十四騎の一人竹森次貞の孫にあたる人物で、19歳で京都に遊学して医術などを学び、39歳頃には五島で士官して

いたのですが、50歳頃福岡に帰り黒田光之に仕えました。太宰府天満宮文庫に寄進された書物の目録に「二国々所々図共十九卷 竹森松寿庵道悦」とみえ、道悦が19巻にも及ぶ地図を寄贈していたことが分かります。つまり先の「琉球国図」はこのうちのひとつと考えられるのです。

東京大学東洋文化研究所の渡辺美季氏が近年、道悦奉納の地図を精力的に探索され、現在までに12の地図が判明しています。太宰府天満宮に残されている「大明全図」「朝鮮国図」、京都大学附属図書館所蔵の「京都図」、ボストンのピーポディー・エセックス博物館所蔵の「肥前長崎図」「世界図」等です。これらは元禄9年（1696）と同11年の2度にわたり奉納されていることが明らかになっています。

道悦はなぜこれらの地図を奉納したのでしょうか。残念ながらそのことを直接的に示す史料はみつかっていません。渡辺氏はこの背景として道悦と筑前の高名な学者であった貝原益軒との交流、および、益軒を基軸とした学芸ネットワークがあったことを指摘しています。

